＜なす（施設栽培）＞

・「おおさかアグリメール」で配信している、年間の主な作業を掲載しています。（気候条件等で前後することがあります。生育状況に応じて管理してください。）
・病害虫の発生は栽培ほ場の状況を良く観察し、毎月の病害虫発生情報は　http://www.jppn.ne.jp/osaka/index.html を参照してください。
・防除薬剤は『大阪府農作物病害虫防除指針http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/body/mokuji.html 』を参照してください。

月	１月			２月			３月			４月			５月			６月			７月			８月			９月			10月			11月			12月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
施設（半促成）	定植	栽培管理		栽培管理	ホルモン剤処理 整枝	病害虫防除	かん水	追肥 摘芯・摘葉	収穫	病害虫防除						病害虫防除			片づけ	土壌消毒									は種	温度管理	接ぎ木・育苗	温度管理		鉢上げ	土づくり	元肥
管理作業	【定植】 ▼植える数日前までにハウスを密閉して地温を確保するとともに、あらかじめ植え穴にたっぷりかん水し、植え付け後のかん水は控えめにしましょう。 ▼接ぎ木部分が地面に接しないよう浅植えにし、アザミウマ類等の防除薬剤を施します。 【栽培管理】 ▼植え付け後は、ハウスの２重被覆やトンネル被覆で保温に努め活着を促します。 ▼活着後は病害の発生を抑えるため、天気のよい日は換気しハウス内の湿度を下げましょう。			【栽培管理】 ▼天気の良い日はできるだけ午前中の早い時間に換気を行いましょう。 ▼一番花は草勢のコントロールに非常に重要なため、草勢が強いときは着果させ、弱いときは除去しましょう。 【整枝】 ▼伸びた側枝は整理し、誘引の準備を進めましょう。黄化した下葉や重なり合った葉の整理も行いましょう。 【ホルモン剤処理】 ▼ホルモン剤は、所定の希釈倍数で効果が最も高い開花日の午前中に処理しましょう。 【病害虫防除】 ▼アザミウマ類などの害虫の発生に気をつけましょう。 ▼すすかび病は一度発生すると防除の難しい病害です。２月末頃から予防的に薬剤防除をするのが効果的です。			【かん水】 ▼温度が高くなり土壌も乾燥しがちですが、地温の低下を防ぐため午後のかん水や、うね間かん水は避けましょう。かん水装置がない場合は走り水程度にします。 ▼換気に努め、節間が短く締まった株を作りましょう。 【摘芯・摘葉】】 ▼主枝以外は１枝１花とし、花の上の１葉を残して摘芯します。 ▼下葉や重なり合った葉は取り除き、内部まで日光が入るようにします。取り除いた葉は必ずハウス外に持ち出して処分しましょう。 【追肥】 ▼花より上の展開葉が２枚以下または、めしべがおしべより短い花が見られたら、すぐ追肥をしましょう。			【病害虫防除】 ▼灰色かび病予防のため、花抜きを必ず行いましょう。 ▼すすかび病やうどんこ病の発生にも注意し、発病葉は必ずハウス外に持ち出して処分しましょう。 ▼ハウス開口部に寒冷しゃ等のネットを張り、外部からの害虫の侵入を防ぎましょう。 ▼アザミウマ類等の害虫の侵入が多くなる時期です。早期防除に努め、ハウス周辺の除草や、うねをビニール等でマルチングし土中で蛹化するのを防ぐのも効果的です。						【病害虫防除】 ▼昼温35℃以下、夜温27℃以下を目標に管理します。 ▼害虫ではアザミウマ類、ハダニ類等、病気では灰色かび病、すすかび病等の発生に注意しましょう。			【片づけ】 ▼栽培終了後はハウスを密閉して病害虫を死滅させた後、ハウス内の残さを搬出しましょう。 【土壌消毒】 ▼７月下旬から８月上旬に太陽熱を利用した土壌消毒を行うと、土壌中の病害虫の減少に効果があります。									【は種】 ▼１月中旬植えの半促成なすは10月中旬が種をまく適期です。 ▼台木は穂木より２-５日早く種をまきます。 ▼育苗箱に５cm幅の条間で、穂木２cm、台木３cmの間隔で種をまき、台木を大きく育てます。 ▼床土には、以前にナス科植物を栽培していない無病の土を用いましょう。 ▼本葉が１、２枚になった頃、台木を３号鉢に鉢上げしましょう。穂木の接ぎ木は11月頃に行います。 【温度管理】 ▼発芽までは地温を昼間最高30℃、夜間最低22℃程度になるよう管理します。発芽後は地温を徐々に低下させ、昼間最高27℃、夜間最低18℃程度にします。			【接ぎ木】 ▼半促成なすは台木が３-４葉、穂木が３葉頃に割り接ぎし、接ぎ木後は密閉遮光状態を保ちます。 【育苗】 ▼翌日からは朝夕の光線の弱いときに30分くらい、次の日は１時間くらいというように、徐々に日光に慣らしていきます。 【温度管理】 ▼苗床温度は、接ぎ木直後は昼間最高30℃・夜間最低22℃程度とやや高めに保ち、接ぎ木４日目以降は徐々に地温を低下させ、昼間最高25℃・夜間最低15℃程度にします。 ▼換気不良や光線不足は、軟弱徒長や花芽不良等の原因となりますので注意しましょう。			【鉢上げ】 ▼半促成なすの苗は、本葉が重ならないよう鉢を広げて管理し徒長を防ぎます。 ▼本葉が５、６枚になったら５号ポットに鉢上げします。 ▼苗床温度は徐々に下げ、植え付け前には昼間最高22℃、夜間最低12℃くらいとし低温に慣らします。 【土づくり】 ▼畑に完熟堆肥を10ａ当たり約３ｔ施用し、土に十分なじませます。 ▼油粕類等の有機質肥料はガスが発生しやすいので、土壌pHの矯正を行い換気に注意しましょう。 【元肥】 ▼窒素成分は10ａ当たり20kg前後までとし、前作が果菜類や軟弱野菜の場合は減らしましょう。		